

# 令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年3月25日  
函館市立赤川中学校

## 1 本年度の重点教育目標

- ・主体的に学び、判断して行動できる生徒
- ・人に優しく、自分に厳しい心をもった生徒
- ・未来に向け、困難や失敗を乗り越えようとする生徒

## 2 本年度の取組の重点

- 【施策1】 ①学力向上……「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善  
②教育課程……恒常的な検証と改善の確立
- 【施策2】 ③豊かな心……校内研修を核とした道徳科授業の充実
- 【施策3】 ④健やかな体…食育の充実や体力向上を図る取組の工夫
- 【施策4】 ⑤安心・安全…安心メール、HPを活用した保護者や地域との連携  
⑥業務改善……教職員における業務改善の一層の推進
- 【施策5】 ⑦CS ……小中一貫した教育の実現に向けた協議の推進

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善方策の評価	主な意見（改善策など）
施策1	①校内で取組を共有し、授業改善を図ることができたか。	a	3観点の評価にかかわる校内研修や小中との授業交流(外国語など)を通して、主体的・対話的で深い学びの視点による授業の検証・改善を図った。	A	A	・継続した小中の授業交流。
	②全国学力調査等の分析結果を共有し、教育課程の改善を図ることができたか。	b	家庭学習の習慣や基礎・基本の確実な定着に向け、キャリア教育との関連や全ての教科での取組の推進を図っていく。	A	A	・家庭でのスマホやゲームのルールづくり。 ・小中で連携した取組。
施策2	③心に響く道徳科の授業実践を通して、いじめ未然防止等を推進することができたか。	a	校内研修や小中連携を通して、発問等の工夫や交流を図った。	A	A	・家庭、地域との連携
施策3	④食育や運動量増加に向け、昼休みの活用等、教育活動の工夫を推進することができたか。	b	生徒会や学年活動の活性化など、コロナ禍での活動について協議・検討し、取組の推進を図っていく。	A	A	・コロナ禍でも、出来るかぎり可能な範囲での生徒の活動。 ・生徒の意見を取り入れた活動。
施策4	⑤安心メールやHPを活用し、地域との連携を深めることができたか。	a	新たにしたHPや安心メールを活用し、情報の効果的な配信を行った。	A	A	・安心メールの更なる活用
	⑥学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	クロムブックの活用(アンケート、テストなど)や、行事・分掌業務の見直しなどを通して、取組の推進を図った。	A	A	・IT環境を生かした更なる改善。
施策5	⑦CSへの理解を深めるとともに、地域や小中の連携を推進することができたか。	a	分掌や担当(7部門)で小中連携を推進した。CSでは、2つの部会を設定し、迅速に取組等について協議・検討できる体制づくりを行うとともに、各組織の年間活動一覧を作成し、連携の推進を図った。	A	A	・生徒のためになる活動に向け、保護者の意見をもっと取り入れていくこと。

### ■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

### ■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。